



実践団体・プラン基本情報

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2025 年 1 月 20 日 (2024 年度のチャレンジプラン)
プラン名	インクルーシブ防災をあたりまえに！
実践団体名	龍谷大学石原ゼミ 防災教育プロジェクト
代表者名	中島律
電話番号	080 8342 2158
メールアドレス	h220266@mail.ryukoku.ac.jp
実践団体の説明	<p>龍谷大学政策学部石原凌河研究室では、2016 年の研究室発足当初から徳島県阿南市の小学校を対象に、延べ 30 校で防災教育出前授業を継続しており、学校の先生や防災に詳しい地域の方々との「対話」を通じて創り上げたオーダーメイド型の防災教育授業を実施している。</p> <p>今年度は、能登半島地震の発生に伴い、2 月から継続的に計 12 回の被災地でのボランティア活動を行ってきた。</p> <p>また、石川県被災高齢者等把握事業に参加し、75 歳以上の独居世帯を訪問し、被災者の生の声を聞き、被災者が抱える問題や生活状況の現状を理解した。また、避難所の炊き出しやカフェ運営、建物被害調査、仮設住宅でのイベントの実施等、様々なボランティア活動を行い、被災地の現状や必要な支援について知り、これらの活動を踏まえ被災者の困りごとや被災地の現状、一人ひとりに寄り添うインクルーシブ防災という観点を授業内容に取り込み、小学生から波及させていく防災教育を実施する。</p>
所属メンバー	<ul style="list-style-type: none">・ 中島律(ゼミ長)・ 吉岡睦喜 (プロジェクトリーダー)・ 大江花梨・城海斗・阪上太一・田中知里・中西恵実子・ 石原 凌河 (石原ゼミ担当教諭)
活動の本拠地	龍谷大学 住所 〒612-8577



	京都府京都市伏見区深草塚本町 67
活動開始時期・結成時期	2023 年 9 月
過去の活動履歴・受賞歴	2022(令和 4 年度) 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」 大賞 (大学生部門) 2023(令和 5 年度) 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」 奨励賞 (大学生部門) 2024(令和 6 年度) 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」 奨励賞 (大学生部門)

プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係
プランの運営側の人数（実数）	約 8 人
プランの活動地域	徳島県阿南市の小学校
プランの防災教育の対象者	3. 小学生（低学年） 4. 小学生（中学年） 5. 小学生（高学年）
防災教育の対象者の人数（実数）	約 120 人
プランが対象とする災害	1. 地震 2. 津波 3. 風水害 4. 土砂災害
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 3. 防災に関する知識を深める 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成 9. 防災に関する技術の習得
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 2. 気象災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 9. その他（具体的に：災害時要援護者に対する理解）
プランの活動形態	4. 総合的な学習（探求）の時間



プランでの連携先	1. 学校・教育関係
実践にかかった金額	50 万円未満

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4 月	■ 計画準備: 2024 年 4~6 月 阿南市内の小学校での「インクルーシブ防災教育」の実施及び地域での「インクルーシブ防災」に関するイベント・ワークショップを実施するための体制を確立	インクルーシブ防災教育をテーマとした学習の構想や意見を学生同士で話しあい、特に能登半島地震ボランティアなどの体験などを参考に授業を実施するための土壌を作る	令和6年能登半島地震災害ボランティア参加 避難所での炊き出し、掃除などをはじめとしたボランティアに参加 現地では、インクルーシブな避難所を運営する方に運営方法などを伺う
5 月	■ 計画準備: 2024 年 4~6 月 阿南市内の小学校での「インクルーシブ防災教育」の実施及び地域での「インクルーシブ防災」に関するイベント・ワークショップを実施するための体制を確立	インクルーシブ防災について社会福祉的観点の文献調査や輪読図書の選出 インクルーシブ防災についての理解や現在の在り方について自ら学習する	令和6年能登半島地震災害ボランティア参加 被災高齢者等把握事業「誰も取り残さない被災者サポートプロジェクト」に参加 この事業で、高齢者等被災者の生活再建のサポートなどを経験する
6 月	■ 防災教育授業実施校及びイベント・ワークショップ実施先との打ち合わせ: 2024 年 6~8 月 「インクルーシブ防災教育」の実施及び「インクルーシブ防災」を題材としたイベント・ワークショップを実施するために、防災教育実施校及び地域との連携団体との打ち合わせを阿南市内で行う。	地域との連携団体や阿南市の教員との連携を図るうえでの「学習指導案」の提出や実際行う授業内容の提案資料の作成及び授業で使用する地図や道具の準備	令和6年能登半島地震災害ボランティア参加 被災高齢者等把握事業「誰も取り残さない被災者サポートプロジェクト」に参加 この事業で、高齢者等被災者の生活再建のサポートなどを経験する
7 月		海外災害援助市民センターの方の講義、対談を通してボランティアやインクルーシブ防災についての知見をさらに深めた	
8 月		防災授業の指導案作成・授業スライド作成	能登半島地震被災地の仮設住宅でイベント開催
9 月	■ 「インクルーシブ防災」を題材とした防災教育授業の実施: 2024 年 9 月 「インクルーシブ防災」を題材とした防災教育授業を阿南市内の複数の小学校にて実施する。「インクルーシブ防災」の必要性や基礎的な知識を理解してもらうための授業について演習を交えて行う。	防災授業の指導案作成・授業スライド作成 阿南市の小学校の先生と連携し、小学校の周りや、地域内での危険な場所や災害時に注意すべき場所の確認や資料作成 具体的な地図やハザードマップを簡易化し小学生にわかりやすく表現したマップの作製 授業の見直し、練習	9 月 20 日に防災教育授業を実施 徳島県阿南市の小学校で実施 能登半島地震被災地での活動や水害とインクルーシブ防災を掛け合わせた授業を展開 能登半島地震被災地の仮設住宅でのイベント開催



10 月			能登半島地震被災地の仮設住宅でのイベント開催
11 月			
12 月	■「インクルーシブ防災」を題材としたイベントやワークショップの実施: 2024 年 12 月 地域住民を対象に「インクルーシブ防災」について考えるイベントやワークショップを構想する。	防災授業の指導案作成・授業スライド作成 9 月の防災教育の授業の改善点や反省点を洗い出し、新たな授業の構想や新規性のあるプランの提案を準備する	
1 月	■「インクルーシブ防災」を題材とした防災教育授業の確立: 2025 年 2 月上旬 「インクルーシブ防災」を題材とした防災教育授業を阿南市内の過去の小学校の授業を参考に確立する。9 月に実施した授業を踏まえて、「インクルーシブ防災」を実践しようとする態度を身につけさせるために演習を中心とした授業の確立	防災授業の指導案作成・授業スライド作成 「インクルーシブ防災」を題材とした防災教育授業を阿南市内の過去の小学校の授業を参考に資料作成、「学習指導案」などの見直し修正	2 月の授業に向けて徳島県阿南市の小学校の教員との最終打ち合わせ 当日の授業の流れや方針を改めて確認する
2 月	■「インクルーシブ防災」を題材とした防災教育の実施: 2025 年 2 月上旬 阿南市の小学生を対象に「インクルーシブ防災」について考える防災教育を実施する。9 月に実施した防災教育を発展させる形で、地域で災害時要援護者を守るための体制づくりなどについてワークショップなどを通じて検討していく。	防災授業の指導案作成・授業スライド作成 「インクルーシブ防災」を題材とした防災教育授業を阿南市内の過去の小学校の授業を参考に資料作成、「学習指導案」などの見直し修正および最終調整 授業の練習	2 月 5 日に防災教育授業を実施予定 徳島県阿南市の複数の小学校で、水害、地震、津波、能登半島地震とインクルーシブ防災を掛け合わせたオーダーメイド型授業を展開予定
3 月	■「インクルーシブ防災」を題材とした防災教育のさらなる発展		

実践したプランの内容

プラン全体の概要	<p>私たちが考えるインクルーシブ防災とは「誰一人取り残さない」という支援する立場のみの視点ではなく、すべての人が当事者であり、「みんなが助かるための防災」である。障がい者や高齢者にとって被災後の生活では多くのストレスがかかる。そこで、徳島県阿南市の小学校を対象に、令和 6 年能登半島地震でそのような被災者の生活状況を踏まえた授業を実施することで、共助の視点を養うことを目的とする。また、将来、起こるとされている地震に備えて子供たちが地域を引っ張っていけ</p>
----------	--



	<p>るような存在になってほしいという思いからインクルーシブ防災授業を実施する。</p> <p>授業内容には、私たちが令和 6 年能登半島地震の被災地で、災害時要援護者の生活が困難であることを知ることができ、それを踏まえた授業を実施した。授業後の感想では、児童たちから災害時要援護者の避難についての理解が深まったとの感想が多かったことから、児童の共助の視点を養うことができたといえる。</p>
プランの「チャレンジ」の結果	<p>「インクルーシブ防災」を「みんなが助かるための防災」とであるという考え方として、社会に波及することを目指し、「インクルーシブ防災教育」の授業を行った。</p> <p>実際に、令和 6 年能登半島地震でのボランティア活動を通して得られた知見をもとに、授業を展開した。ボランティア活動の一環として、被災高齢者等把握事業に参加し、災害により生活に困難が生じている後期高齢者の方々の話を聞く中で、共助の視点の必要性を実感した。このことを、将来を担う小学生たちに伝え、共助の視点を一緒に考えることで、インクルーシブ防災の波及につながると考える。避難所運営ゲームの実施や災害時要援護者の個別避難計画の作成によって、小学生がインクルーシブ防災に興味・関心をもってもらえるような授業を展開した。授業後の感想では、おじいちゃんおばあちゃんや地域の高齢者を助けたい、ということが多く書かれていた。このことから、「インクルーシブ防災」の波及に寄与できたといえる。</p>
実践内容・方法・成果	<p>龍谷大学石原ゼミ防災教育プロジェクトでは、インクルーシブ防災をテーマとした防災教育授業を徳島県阿南市の小学校で実施し、指導者向けのカリキュラム・教材・学習指導案を作成した。それをもとに児童にインクルーシブ防災授業を実施することで、防災教育授業で小学生にインクルーシブ防災の重要性を理解してもらい、自分事として考えてもらうことができ、インクルーシブ防災の波及へとつながる。</p> <p>このことから、社会全体のインクルーシブ防災の波及には、小学生にインクルーシブ防災の重要性、共助の視点を養うことができる授業の展開が必要である。</p>



プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

1.【準備段階】 <u>運営側の担当者を決める際の工夫</u>	児童と積極的に話せるように一人ひとりに児童と接することができる役割を設けた。
2.【準備段階】 <u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u>	校長先生を通じて他の学校に学校防災出前授業を伝達してもらえるようにお願いした。
3.【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u>	
4.【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u>	
5.【準備段階】 <u>準備時間を確保する際の工夫</u>	学校がない日でも集まれるように何か月も前から予定を合わせていた。
6.【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u>	
7.【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u>	
8.【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u>	海外災害援助市民センターや京都府立宇治支援学校防災アドバイザーの方の講義、対談を通してボランティアやインクルーシブ防災についての知見をさらに深めた
9.【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u>	学習指導要領を何度も修正し、学校の先生から助言をもらい、より良いものとなるように努力した。
10.【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u>	京都府立宇治支援学校防災アドバイザーの方に助言を求めた。
11.【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u>	授業を実施する学校の地理的特徴や過去の自然災害から、その地域に合わせた授業を実施した。
12.【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u>	小学校では総合的な活動の時間を確保してもらい、出前授業を行った。
13.【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u>	



14.【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u>	
15.【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u>	1 学年下のゼミ生と指導案の内容共有やアドバイスなどを行い、今後も防災教育授業が継続できるよう後継の人材育成に努めた
16.【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u>	KJ法などを用いて、メンバーと意見を共有し、次の授業へつなげられるような取り組みを行った。
17.【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u>	Instagram、X 等にて活動内容の広報を行った。 高校生に活動内容を知ってもらえるような機会を作った。 学部内で活動内容を発表した。
18.【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u>	授業の実施後、児童からもらった感想や教員からの評価から反省を行い、今後の防災授業に生かせるようにした。

今後の活動予定・今後の展開	2 月 5 日に阿南市立橘小学校と阿南市立中野島小学校にて防災教育授業を実施予定。プロジェクトの活動としてはこの 2 月に行う授業が最終となるが、1 学年下のゼミ生が自分たちの活動を引き継ぎ、来年度も徳島県阿南市での防災教育出前授業の実施を予定している。この一年間の活動を通しての振り返りを行い、1 学年下のゼミ生と共有する。
---------------	---

その他（PRポイントなど）	ワークショップでは、個別避難計画の作成やクロスロード等に取り組み <u>児童が自主的に学びを深め、インクルーシブ防災について考えることのできる授業を実施した。今年は石川県被災高齢者等把握事業や避難所での炊き出し等、被災地でのボランティア活動の経験で得た教訓を活かした防災教育出前授業を展開している</u> <u>という点において我々の取り組みは独創性がある</u> と考
---------------	--



える。また、大学生と教員、児童とその家族、地域の
特徴やつながりを重視しているという点においても
我々の取り組みは独創性があり、阿南市の新たな防災
教育の発展に大きく貢献する活動であると考えてい
る。そして、学校教員への水平展開を見据えた防災教
育出前授業を実施することで、学校が主体となりイン
クルーシブな視点を次世代へと波及してもらえるよう
な活動にもなっている。